

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 瀬戸蔵ミュージアム【愛知・瀬戸】 (<http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2011031500146/>)



令和4年12月3日(土)～令和5年3月5日(日)

企画展: 白雲陶器—純白軽量なる新陶器—

近代デザインの流れは第一次世界大戦後を転換期として変わりつつあり、ヨーロッパからアメリカ市場へ輸出される陶磁器のデザインにも影響を与えてきました。特に大衆品にはそれが現れ、その多くは軽量な石灰質陶器の製品が流行していました。国の機関である商工省陶磁器試験所は、この動向をとらえ、欧米で流行する軽量の石灰質陶器に近い特長を持つ新素材の研究を進めます。そして1933(昭和8)年、白雲石(ドロマイト)を用いた「白雲陶器」が誕生します。この白雲陶器は、純白の素地と軽量という特徴を持つ、戦前の陶磁器業界において、これまでになかった新しいタイプの低火度焼成陶器でした。早速アメリカ市場をターゲットにした本格的なデザイン研究が始まり、その中心として同年に国の機関へ移行した瀬戸試験場で量産化と応用試験が行われていきます。そして国内外の工芸展への出品など輸出の可能性を探りますが、時局は戦時へと移り、太平洋戦争の勃発により輸出拡大につなげることは出来ませんでした。しかし、戦後の輸出再開後、改良が加えられた白雲陶器は、瀬戸の輸出向けノベルティの主要な製品となり、輸出拡大に貢献するまでになりました。本展では、この白雲陶器の開発から商品化へ奔走していく戦前の状況を中心に展観していきます。

2. 大府市歴史資料館【愛知・大府】

(https://www.city.obu.aichi.jp/bunka/bunka_event/event_kanko_rekishi/1025434.html)

1月21日(土)～3月12日(日)

企画展: 大倉陶園展—オールド大倉の精華—

大倉和親のゆかりの地大府市で開催される本展では、和親の意向が色濃く反映され「オールド大倉」の名で親しまれる優品をご紹介します。



3. サントリー美術館【東京・港区】 (https://www.suntory.co.jp/sma/exhibition/2023_1/display.html)

2月8日(水)～3月26日(日)

企画展: 没後190年 木米

江戸時代後期の京都を代表する陶工にして画家である文人・木米(もくべい・1767～1833)は、京都祇園の茶屋「木屋」に生まれ、俗称を「八十八」と言います。木屋あるいは氏の「青木」の「木」と、八十八を縮めた「米」に因んで「木米」と名乗りました。また、中年に耳を聾した



ことに由来する「聾米」のほか、「龍米」「九々鱗」「青來」「百六山人」「古器觀」などの号があります。本展では、当時の文人たちが憧れた木米の個性あふれる屈指の名品を一堂にご紹介します。木米の陶磁、絵画、交友を通して、その稀有な生涯と木米芸術の全貌に触れる貴重な機会となります。

4. 多治見市美濃焼ミュージアム ギャラリーS1【岐阜・多治見】

(https://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/archives/5839)

1月4日(水)～3月5日(日)

企画展:思春期の心 多治見中学校3年生の茶碗 2023

令和4年4月、多治見中学校で、昨年度に続き「特別鑑賞会」を実施しました。これは、美術科で卒業記念の茶碗をつくるにあたって、郷土のやきもの、美濃桃山陶を本物から学ぼうという、授業の一環として実施したものです。

鑑賞する茶碗は、当館所蔵の織部焼の2碗(黒織部茶碗、鳴海織部茶碗ともに17C)で、3年生約180人が、織部の個性的な茶碗を両の掌に抱いて鑑賞しました。この鑑賞会で大切にしたのは、表現の基盤となるのは「感動体験」であり、そのためには本物のもつ絶対的な価値を自然に、効果的につかみとるということでした。

バーチャルな体験が誰でも簡単にできるようになった今日だからこそ、実物を身近で見たり感じたりすることが、ますます重要になってきていると考えた実践でした。これは、実物展示を使命としている博物館、そして当館にとって、教育施設としての立場を展望するうえで、大きなテーマとしているところです。今回、こうした授業の導入から始まった、多治見中学校3年生の心の振幅が感じ取れる生徒の作品と、授業で鑑賞した本物2碗を共に展示して、その意味・意義を検証します。昨年度に続き2回目となる企画です。



黒織部茶碗17Cの鑑賞風景

開館時間: 9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日: 月曜日(祝日の場合は翌平日)年末年始(12/29～1/3)

観覧料: 一般320円(260円)、大学生210円(150円)、()内は団体料金(20名様以上)
※高校生以下、障害者手帳の交付を受けている方とその付添いの方1名は無料

連絡先: 多治見市美濃焼ミュージアム 学芸員 山口晴路 岩井利美(館長)

岐阜県多治見市東町1-9-27

電話:0572-23-1191 FAX:0572-23-4538

E-Mail: minoyaki@tajimi-bunka.or.jp